

考えよう 防災のこと



【問合せ先】地域安全課消防防災係
(☎ 28-9510)

災害や新型コロナウイルスの感染に備えて食料品などを備蓄しましょう



なぜ、食料品などの家庭備蓄が必要なの？

下記のような、あらゆる事態を想定して、最低でも3日分、できれば1週間分の食料品などが必要です。

▼災害などで食料品が手に入りにくくなった場合

いつ起こるかかわからないのが災害です。いざ発生すると、電気、ガス、水道などのライフラインが使えなくなったり、道路が寸断されたりして、物流が滞るおそれがあります。

▼新型コロナウイルスに感染し、外出できなくなった場合

新型コロナウイルスに感染し、自宅療養者となった場合は、市や県から食料品などの支援を受けられますが、混雑時は、申し込みから受け取りまでに時間を要する場合があります。



何を備蓄すればいいの？

▼水、カセットコンロは必需品。食料品は1人最低3日分の備蓄を

災害後は、ライフラインが止まる可能性があるため、水とカセットコンロなどの熱源は必需品です。水は、飲料水と調理用水で1人1日約3リットル分が必要です。飲み物はペットボトルや缶入りのお茶、食料品は缶詰やレトルト食品、カップ麺などがあると便利です。

また、新型コロナウイルスにより自宅療養者や濃厚接触者となった場合は、原則、外出ができなくなります。食料品に加えて、家族内感染を防ぐためのマスク、消毒液、ハンドソープ、除菌シートなども備蓄しておきましょう。



乳幼児や高齢者、持病・アレルギーのある方は？

▼それぞれの人に合った食料品を備蓄しましょう

乳幼児や高齢者、食べる機能（かむこと・飲み込むこと）が弱くなった方、慢性疾患の方、食物アレルギーの方などの食事は注意が必要です。ふだんのような食事がとれるように備えましょう。



食料品の備蓄を始めるには？

▼「ローリングストック法」がおすすめです

食料品の備蓄は簡単に、誰でも無理なく始められます。ローリングストック法とは、「蓄える→食べる→補充する」を繰り返しながら、一定量の食料品が備蓄されている状態を保つ方法です。普段食べているカップ麺や缶詰などを少し多めに買い置きして、賞味期限の古いものから消費したら、その分を補充していくだけです。



市では、新型コロナウイルス感染症により自宅療養者となった方がいるご家庭のうち、食料品などの確保が困難な方の不安の軽減や、市民への感染リスクの低減を図るため、食料品などを支援しています。1週間相当分の食料品（ご飯、レトルト食品など）と、家族内の感染拡大を防止するための日用品（マスク、手指消毒液など）を無料で配布します。



■対象となる方＝新発田保健所からの指示による自宅療養者及び、その同居家族（濃厚接触者に限る）で、市からの支援を希望する市内に在住または滞在している方

■配布数＝自宅療養者1人につき1セット、同居の濃厚接触者のいる世帯1世帯につき1セット

■申込み方法＝地域安全課へ、自宅療養者本人かその家族の方が、直接電話で申し込んでください

※自宅療養者の同居家族は、3月1日以降の申し込み分から対象です